

トランプとイタリアメローニの痴話喧嘩【652号】

2026年 7月 石館

イタリアのメローニ首相とトランプ米大統領の対立が再び表面化した。今年4月にトランプ氏がキリスト教カトリック教会トップの教皇レオ14世を“犯罪に弱腰で、外交政策もひどい”などと非難した際には、メローニ氏はそのような発言は容認できないとトランプ氏を非難した。



G7 サミットでは冗談を交し合う場面もあった。

両首脳はかつては政治的に緊密な関係を築いていた。2022年にイタリアの首相になったメローニ氏は、欧州首脳としてただ一人、

2025年1月に行われたトランプ大統領就任式に出席した。

EUの多くの首脳たちは、メローニ氏がトランプ氏との橋渡し役になることを期待していた。しかし米国によるイラン攻撃を境にこじれた。イタリアは米軍がイランでの作戦にシチリア島の空軍基地を使うことを拒否した。

トランプ氏はイラン攻撃に非協力的な欧州各国を非難しており、イタリアからの米軍引き上げもほのめかした。G7 サミットでは関係修復の兆しもあったが19日のトランプのイタリアメディアとのインタビューで打ちこわしとなった。それはトランプ氏がメローニ氏と一緒に写真を撮るように懇願されたと話したことだ。

これにイタリア側は反発し伊外相が21日からの訪米予定を直前で取りやめるという事態に発展した。メローニ氏はSNSで“この話は完全に捏造だ。私と

イタリアは懇願などしない“と否定した。”何故米国の大統領が同盟国にこのような態度を取るか理解できない“と怒りをあらわにした。



もし本当にこのようなことをトランプに頼んだにせよ、外交儀礼上外部に漏らさないのが当たり前であるが、自己顕示欲の強いトランプにそのようなことを期待すること自体無理なんだろう。

日米伊は何れも G7 の一員である。トランプ政権は対ロシアで欧州に圧力を強めつつあり、イランや中東情勢を巡る交渉も進めている。米伊の首脳関係が悪化すると、対ロシア制裁やウクライナ支援、中東情勢への対応で足並みが乱れるリスクがある。日本は G7 内の“調整役”として、日米関係を軸にしつつ、イタリアとも橋渡しを求められる立場になりやすくなる。

現時点では“日伊関係が悪化した”という報道はなく、問題はあくまで米伊二国間で顕在化している。では日本への影響はどんなことが想定されるであろうか
* G7 内の結束が弱まると、対ロシア制裁や中国へのメッセージで日本の外交調整コストが増える

* 米伊関係が冷え込むと、NATO や EU との協調を通じた安全保障・経済政策で、日本が米国側の立場を補強する役割をより求められる。

* 逆に言えば、日本がイタリアとの二国関係を安定的に保てば、G7 内での影響力を高めるチャンスになる。

今後この喧嘩は中長期的にどうなるであろうか。トランプ絡みの問題はなかなか予想するのが難しい。

* トランプ氏もメローニ氏も、国内支持を意識した“感情的なやり取り”が多いタイプなので、今後の発言次第では一時的にさらに関係悪化の可能性がある

* ただし、イタリアもアメリカも安全保障や経済での利害が大きく、完全な決裂は避けたいはずなので、“実務レベルでは協力を続けるが、首脳同士はメンツもあるのですぐには落ち着かないであろう”

* しかしトランプと各国の首脳レベルとの関係はトランプに言わせれば皆友人関係で自分の魅力の惚れ込んでいるといったはかない独りよがりの関係であり

真の友情関係は成り立っていない。プーチンも金正恩も友人であり、自分は白馬の騎士で自分が出ていけばなんでも解決するといった妄想にかられている。

イスラエルのネタニヤフ首相はトランプより一枚上で、トランプの性格を熟知したうえで、2月28日今イランを攻めればハメネイ以下イランの首脳陣が集まって会議をしているので一気に殲滅する絶好のチャンスであり、トランプは歴史に名を残すと功名心を煽った結果、それに乗ってしまった。

高市首相が訪米した際、世界の平和と安全を守れるのはトランプ以外いないと煽てまくったことは日本でも一部ではかなり評判が悪かった。ただトランプに正論を言い、よくぞ言ったと喝さいを浴びても本当に国益に沿うであろうか。ヨーロッパ全体のサポートを得ているメローニの発言と高市首相の発言はおのずと違ったものになってしかるべきである。

小生が入社3年目にドイツ駐在になったが、その当時はイタリアの企業と密接な関係になり毎月のようにイタリアに行っていた。スペイン語を多少勉強していたので、イタリアに行ってもある程度理解が出来た。

イタリアはちょっといい加減な所もあるが面白い国でこの国が好きになった



今年2月に冬季オリンピックが開かれたコルティナダンペッツォとドロミテ山塊

特にイタリアの大手機械メーカーのダニエリ社とは親しくなり、同社の社長が所有するコルチナの山荘に何回か招か

れたことがある。同社の社長には娘が3人おり、何を気にいられたのかそのうちの一人と結婚しないかというようなことを打診された。もう結婚していると伝え丁重にお断りした。後日談があり、今から40年以上前小生はエジプトの製鉄会社に出向しておりその調達部長をやっていたが、そこでの入札でダニ

エリ社が参加しており、そこの社長も来ており、その社長は3人娘の長女であり、仕事を離れて昔話をした思い出がある。この長女は若い頃は素晴らしい美人であったが、久しぶりに会ってすっかり太った中年のおばさんになってしまったのにはすこしがっかりした。

今回の問題の真相は分からぬが、小生のイタリアびいきを差し引いても、やはりトランプが自分を引き立てる意味でもこのような発言をしたのではないかと思っている。メローニ氏は6月17日の記者会見で“トランプ氏との関係は変わっていない。互いの立場を理解している”と大人の対応をしている。